

# 令和7年度事業報告書

---

自 令和7年4月1日 至 令和8年3月31日

社会福祉法人柳川市社会福祉協議会

## 令和7年度 事業報告概要

本市では、人口減少や少子高齢化の進行、人間関係の希薄化などを背景に、地域や家族の形態は大きく変化しています。加えて、近年の急激な物価高騰等の影響もあり、単身高齢者の増加や社会的孤立、生活困窮世帯の増加など、多様化・複合化した生活課題への対応がこれまで以上に求められています。

そのような中、本会では、誰もが安心して暮らし続けられる地域社会の実現に向けて、令和4年度に策定した「第3期地域福祉活動計画」の3年度目の取り組みを進め、地域住民の個別ニーズに応える生活支援や地域の福祉関係者及び団体等と連携し、制度の狭間にある様々な福祉課題に対応していくための福祉事業や福祉活動を実施、推進してきました。

### 《重点目標について》

#### (1) 財政基盤の強化

寄附金及び共同募金については、全体としては減少傾向が見られる中、福岡県共同募金会柳川市支会の取り組みに積極的に協力し、新たに募金協力先の開拓を行い、協力団体・事業所の拡充につなげることができました。

在宅福祉事業については、新規利用者の獲得に向けた広報活動や関係機関との連携強化に取り組みましたが、利用者数の回復には至らず、収入面では厳しい状況が続きました。

また、自主財源の安定確保に向け、事務事業の見直しや経費削減に取り組み、効率的な運営に努めました。今後も引き続き、新規募金協力先の開拓を進めるとともに、在宅福祉事業の利用促進及び新たな財源確保策の検討を進めていきます。

#### (2) 第3期地域福祉活動計画の推進

第3期地域福祉活動計画を推進するにあたり、地域福祉活動への市民の理解と参画は不可欠であることから、引き続き社協だよりに計画内容を連載し市民への理解促進と周知を行いました。

7期目を迎えている福祉委員については、地域の見守り等に共に取り組むパートナーである民生委員児童委員との合同研修会を新たに開催し、地域福祉への相互理解と連携強化に努めました。

また、市民への福祉啓発や福祉課題の解決を目的とした取り組みとして、やながわ福祉のつどい、市民福祉講座、福祉出前講座、地域サロン座談会等を実施しました。これらを通じて、地域に根差した社協を目指し、取り組みを進めました。

生活困窮世帯への対応では、生活福祉資金の貸付や緊急支援品の支給等を行いました。昨年度と比較して相談件数はやや減少しているものの、慢性的に生活困窮に陥っている世帯も多く、相談者への伴走的支援が求められています。

また、新型コロナ特例貸付世帯へのアンケート調査や自宅訪問を行い、未だ多くの世帯が金銭的な困りごとがあることがわかったことから、司法書士による生活相談会も実施しました。

日常生活自立支援事業については、判断能力が不十分な方の権利擁護のため、適切なサービスの提供に努めました。なお、当該事業については、利用ニーズが増加傾向にあるため、生活支援員の配置見直し等を行うなど実施体制を検討していきます。

### (3) 地域の支え合い活動の推進

生活支援体制整備事業を通じて、よりあい活動や地域食堂といった居場所づくりの普及推進、買い物支援事業の企画調整等を行いました。

また、モデル地区にて住民座談会を実施し、地域ニーズの把握と新たな地域資源の立ち上げを行いました。

個人を支える取り組みとしては、生活支援ボランティア（ちょいボラ）の周知とボランティア活動者の増加に努め、独居高齢者世帯等が抱える生活課題の解決と高齢者の活躍の場づくりに努めました。

### (4) 権利擁護事業の推進

令和7年2月に開設された柳川市成年後見センターと連携を図るため、年6回行われるサポート会議等に参加し、日常生活自立支援事業の利用者の情報を関係機関で共有し、成年後見制度への移行等について協議を行いました。

なお、市民生活支援員の登録については、報酬の支給に伴う財政的な課題などがあることから、引き続き検討を行っていきます。

## 1. 法人経営部門

- (1) 理事会・評議員会等の開催
  - 理事会の開催 5回 (6/4. 6/20. 9/17.12/17.3/19)
  - 監査 1回 (5/13)
  - 評議員会の開催 2回 (6/20. 3/27)
  - 正副会長会の開催 1回 (3/5)
  - 企画財政委員会の開催 1回 (1/29)
  - 評議員選任・解任委員会の開催 2回 (6/12.1/9)
  - 表彰審査委員会の開催 1回 (9/25)
- (2) 職員の教育・研修 5回 (職員研修 2回、人権・同和研修 4回、災害研修 1回)

## 2. 地域福祉活動部門

- (1) ボランティアセンター管理運営
  - 窓口対応件数 698件 ボランティア体験会 (2回、16人参加)
  - ボランティアサロン 12回開催、延べ108人参加
  - 生活支援ボランティア (ちょいボラ) 活動件数 121件
- (2) ボランティア講座 1回開催、約60人参加
- (3) 傾聴ボランティア養成講座 3回開催、14人参加
- (4) 市民福祉講座 2回開催、延べ66人参加
- (5) 福祉出前講座 柳河小学校 5年生 (29人)、城内小学校 5年生 (27人)、  
両開小学校 5年生 (28人)、昭代第一小学校 5年生 (33人)、  
蒲池小学校 3年生 (49人)、4年生 (58人)、やまと小学校 3年生 (110人)、  
垂見小学校 4年生 (25人)、5年生 (24人)、矢留小学校 5年生 (34人)、  
柳川高校 1年生 (280人)
- (6) 福祉教育教材配布 613冊 (小学校 14校、特別支援学校 1校、教職員分を含む)
- (7) 各種機材・機器等貸与事業 貸与件数 23件
- (8) 各種基礎調査 令和7年3月31日現在 人口、世帯数、独居高齢者数、高齢者世帯数
- (9) 社協だよりの発行 年6回 (No.121~No.126)
- (10) インターネットによる情報発信 ホームページ (通年)、LINE、フェイスブック
- (11) やながわ福祉のつどい 11/29、市民文化会館、参加者約200人
- (12) 福祉委員設置推進  
290行政区/420人 地区別研修会 (9/4、9/9、9/12)、全体研修会 (6/6、1/28)
- (13) 地区社協事業  
全体連絡会 2回 役員研修会 (10/18) 各地区への個別支援 (70回)
- (14) よりあい活動支援事業  
遊具貸与件数 49件 レクリエーション指導 47回 (25団体) 助成金交付 2件  
地域サロンネットワーク会議 (12/19)
- (15) 地域食堂支援事業  
助成金交付 3件 地域食堂ネットワーク会議 (10/24)

- (16) 助成事業
  - 歳末たすけあい事業支援 (19 地区社協、920,100 円)
  - 福祉団体活動支援 (4 団体、573,000 円)
  - ボランティア団体活動支援 (4 団体、141,000 円)
  - ボランティア連絡協議会活動支援 (100,000 円)
  - 地域食堂支援 (3 団体、60,000 円)
- (17) 物故者敬供事業 817 件
- (18) 生活支援体制整備事業
  - 地域資源の把握・情報発信 (やながわくらしの便利帳作成、発行)
  - よりあいの場立ち上げ支援 (よりあい活動・地域食堂立ち上げ及び運営支援)
  - ネットワークの構築 (地区社協活動支援、地域座談会の開催等)
  - 新たなサービスの開発等 (ちょいボラ推進、昭代マルシェ開催、買い物支援事業の検討)
- (19) 地域における公益的な取り組みの推進
  - 市内清掃活動への参加 2 回 延べ 24 人
  - 社会福祉法人連絡協議会主催の研修への参加 5 人

### 3. 市民福祉サービス部門

- (1) 心配ごと相談事業 開設日数 23 日 相談件数 23 件
- (2) 緊急支援品支給事業 申請件数 142 件 実申請者数 42 人
- (3) 生活福祉資金貸付事業
  - 相談件数 113 件 申請件数 10 件 決定件数 9 件
  - コロナ特例貸付 償還完了件数 20 件
- (4) 子育て支援ゆずりあい事業 譲受件数 13 件 譲渡件数 14 件
- (5) 福祉用具貸与事業 年間貸与延べ件数 593 件
- (6) ハンディキャブ貸与事業 年間貸与件数 87 件 実利用者数 28 人
- (7) 火災見舞品支給事業 1 件/3 セット
- (8) 日常生活自立支援事業 利用者数 29 人 支援回数 510 回
- (9) 法人後見事業 受任件数 0 件
- (10) 老人福祉センター管理運営
  - 大和老人福祉センター 開館日数 293 日 延べ利用者数 367 人
  - 三橋老人福祉センター 開館日数 263 日 延べ利用者数 9,396 人

### 4. 障がい者相談支援部門

- (1) 障害者相談支援事業 相談件数 11,527 件
- (2) 特定相談支援事業 サービス利用計画作成 111 件

### 5. 在宅福祉サービス部門

- (1) 居宅介護支援 ケアプラン作成 703 人
  - 訪問介護 利用者数 183 人 利用回数 1,273 回
  - 障害者居宅介護 利用者数 90 人 利用回数 1,014 回



## 事業報告付属明細書

《法人経営部門》

### 1. 理事会・評議員会等の開催

会議名等	時期・場所等	議案内容及び結果等
(1) 理事会	<b>第1回理事会</b> ○令和7年6月4日 ○柳川総合保健福祉センター ○出席者 ・理事12人（総数12人） ※定数10人以上15人以内 ・監事2人 ※定数2人 ・事務局6人	議案第1号 指定一般相談支援事業所運営規程の一部改正に係る専決処分 議案第2号 令和6年度事業報告及び決算報告 [主な意見及び質疑] ・介護保険事業の予算と決算の差異について ・体制整備事業の事業費全額返還の理由について 議案第3号 次期役員選任候補者の推薦 議案第4号 次期評議員選任候補者の推薦 議案第5号 評議員会の招集 議案第6号 評議員選任・解任委員会の招集 報告第1号 令和6年度会長及び常務理事の職務執行状況（下半期）の報告  ※全議案全会一致で可決
	<b>第2回理事会</b> ○令和7年6月20日 ○柳川総合保健福祉センター ○出席者 ・理事12人（総数13人） ※定数10人以上15人以内 ・監事2人 ※定数2人 ・事務局3人	選任第1号 会長の選任 選任第2号 副会長の選任 選任第3号 常務理事の選任 議案第1号 事務局長の選任  ※全議案全会一致で可決
	<b>第3回理事会</b> ○令和7年9月17日 ○柳川総合保健福祉センター ○出席者 ・理事12人（総数13人） ※定数10人以上15人以内 ・監事2人 ※定数2人 ・事務局3人	議案第1号 令和7年度一般会計資金収支補正予算 [第1号]の専決処分 議案第2号 令和7年度一般会計資金収支補正予算 [第2号]の専決処分 [主な意見及び質疑] ・人件費備考欄の表記について 議案第3号 令和7年度一般会計資金収支補正予算 [第3号]の専決処分 [主な意見及び質疑] ・退職した職員の勤務年数について 議案第4号 就業規則の一部変更について [主な意見及び質疑] ・対象職員の数について 議案第5号 後任評議員選任・解任委員の選任  ※全議案全会一致で可決

	<p><b>第4回理事会</b></p> <p>○令和7年12月17日</p> <p>○柳川総合保健福祉センター</p> <p>○出席者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事12人（総数13人）</li> <li>※定数10人以上15人以内</li> <li>・監事2人</li> <li>※定数2人</li> <li>・事務局3人</li> </ul>	<p>議案第1号 評議員選任候補者の推薦</p> <p>議案第2号 評議員選任・解任委員会の招集</p> <p>報告第1号 令和7年度会長及び常務理事の職務執行状況（上半期）の報告</p> <p>[主な意見及び質疑]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算達成率が50%を下回る理由について</li> </ul> <p>※全議案全会一致で可決</p>
	<p><b>第5回理事会</b></p> <p>○令和8年3月19日</p> <p>○柳川総合保健福祉センター</p> <p>○出席者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事10人（総数13人）</li> <li>※定数10人以上15人以内</li> <li>・監事2人</li> <li>※定数2人</li> <li>・事務局7人</li> </ul>	<p>議案第1号 給与規程の一部改正</p> <p>[主な意見及び質疑]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市社協が市の給料表を準用している理由について</li> </ul> <p>議案第2号 令和7年度一般会計資金収支補正予算書 [第4号]</p> <p>議案第3号 就業規則の一部変更</p> <p>議案第4号 令和8年度事業計画</p> <p>議案第5号 令和8年度一般会計資金収支予算</p> <p>[主な意見及び質疑]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員報酬の引上げについて</li> </ul> <p>議案第6号 評議員会の招集</p> <p>※全議案全会一致で可決</p>
(2) 監査	<p><b>第1回監査</b></p> <p>○令和7年5月13日</p> <p>○柳川総合保健福祉センター</p> <p>○出席者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・監事2人</li> <li>※定数2人</li> </ul>	<p>令和6年度事業報告及び決算報告に係る監査</p> <p>※指摘事項なし</p>
(3) 評議員会	<p><b>定時評議員会</b></p> <p>○決議日：令和7年6月20日</p> <p>○柳川総合保健福祉センター</p> <p>○出席者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評議員13人（総数19人）</li> <li>※定数17人以上22人以内</li> <li>・監事2人</li> <li>※定数2人</li> <li>・会長、常務理事</li> <li>・事務局7人</li> </ul>	<p>議案第1号 令和6年度事業報告及び決算報告</p> <p>議案第2号 次期役員の選任</p> <p>※全議案全会一致で可決</p>

	<p><b>第2回評議員会</b></p> <p>○令和8年3月27日</p> <p>○柳川総合保健福祉センター</p> <p>○出席者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評議員15人（総数20人）</li> <li>※定数17人以上22人以内</li> <li>・会長、常務理事</li> <li>・事務局6人</li> </ul>	<p>議案第1号 令和7年度一般会計資金収支補正予算 [第1号]の専決処分</p> <p>議案第2号 令和7年度一般会計資金収支補正予算 [第2号]の専決処分</p> <p>議案第3号 令和7年度一般会計資金収支補正予算 [第3号]の専決処分</p> <p>[主な意見及び質疑]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正規職員退職後の補充について</li> </ul> <p>議案第4号 令和7年度一般会計資金収支補正予算 [第4号]</p> <p>議案第5号 令和8年度事業計画 [主な意見及び質疑]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社協会費の目標値の根拠について</li> <li>・行政区未加入世帯への社協会費依頼について</li> </ul> <p>議案第6号 令和8年度一般会計資金収支予算 [主な意見及び質疑]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員報酬の独立議案について</li> <li>・専決処分のルールについて</li> <li>・赤い羽根の取り扱いについて</li> </ul> <p>※全議案全会一致で可決</p>
<p><b>(4) 正副会長会</b></p>	<p><b>第1回正副会長会</b></p> <p>○令和8年3月5日</p> <p>○柳川総合保健福祉センター</p> <p>○出席者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会長</li> <li>・副会長1人</li> <li>・常務理事</li> <li>・事務局7人</li> </ul>	<p>協議第1号 令和8年度事業計画（案）</p> <p>協議第2号 令和8年度収支予算（案）</p>
<p><b>(5) 企画・財政委員会</b></p>	<p><b>第1回企画・財政委員会</b></p> <p>○令和8年1月29日</p> <p>○柳川総合保健福祉センター</p> <p>○出席者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画・財政委員6人</li> <li>※定数8人</li> <li>・常務理事</li> <li>・事務局3人</li> </ul>	<p>選任第1号 委員長及び副委員長の選任</p> <p>議案第1号 令和8年度福祉団体等助成金の交付 [主な意見及び質疑]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の活動内容や会員数の動向について</li> <li>（その他）福祉団体等助成金交付に係る企画・財政委員会の役割</li> </ul> <p>[主な意見及び質疑]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規団体からの申請の有無に応じた委員会開催の可否について</li> <li>・助成金上限額の引上げについて</li> </ul> <p>※全議案全会一致で承認</p>

(6) 評議員選任・解任委員会	<b>第1回評議員選任・解任委員会</b> ○令和7年6月12日 ○柳川総合保健福祉センター ○出席者 ・評議員選任・解任委員5人 ※定数5人 ・事務局3人	議案第1号 次期評議員の選任  ※全議案全会一致で承認
	<b>第2回評議員選任・解任委員会</b> ○令和8年1月9日 ○柳川総合保健福祉センター ○出席者 ・評議員選任・解任委員4人 ※定数5人 ・事務局2人	議案第1号 評議員の選任  ※全議案全会一致で承認
(7) 表彰審査委員会	<b>第1回表彰審査委員会</b> ○令和7年9月25日 ○柳川総合保健福祉センター ○出席者 ・表彰審査委員6人 ※定数6人 ・事務局3人	やながわ福祉のつどい被表彰者の審査 令和7年度被表彰者 社会福祉団体役員 1名 心配ごと相談員 1名 社会福祉団体 2団体 福祉委員 16名

## 2. 職員の教育・研修

研修名等	時期・場所等	内容及び効果
(1) 職員研修	令和7年7月11日 柳川総合保健福祉センター 参加者 常勤職員24人	「社協で一致団結！～心もお腹も満腹に～」 マシュマロタワーやモルックを通じてチームワークの醸成を図った。普段は拠点間での職員同士の関わりが限られる中、本取組により相互理解と交流の促進につながる有意義な機会となった。
	令和7年11月7日 柳川総合保健福祉センター 参加者 常勤職員24人	「自衛隊から学ぼう！～災害時のサバイバル術～」 自衛隊が行う災害派遣活動や自助・共助・公助の重要性と発災前に備えるべきことを学んだ。
(2) 人権・同和研修		
i 人権を考えるつどい (柳川市主催)	令和7年12月7日 柳川総合保健福祉センター 参加者 8人	「みんなちがって、みんないい」 (人権コンサート) 講師 ちひろ氏

ii 企業等の事業主に対する人権・同和問題研修会	①令和7年5月27日 まいピア高田 参加者 1人 ②令和7年12月10日 オンライン研修 参加者 1人 ③令和8年1月19日 まいピア高田 参加者 1人 ④令和8年2月26日 大牟田文化会館 参加者 1人	①「性的マイノリティ当事者の悩み事とその対応の仕方について」(講演) 講師 黒部美咲氏 ②公正採用に関するDVD上映 「企業等における公正な採用選考について」 講師 福岡労働局 ③「ともに歩むために」(DVD上映) 「人権が尊重される社会のために」 講師 濱近政和氏 ④「よかったら想いを聴かせて」(DVD上映) 「障がいて何だろう？障害はどこにある？」(講演) 講師 船越哲朗氏
(3) 災害ボランティアセンター研修	令和7年9月7日 みやま総合市民センター 参加者 59人 (内柳川市 11人)	南筑後地区社会福祉協議会災害時相互支援協定に基づき、大牟田市、八女市、みやま市と合同で研修会を行った。 本年度は、今後、協働型災害ボランティアセンターを運営するために、企業・団体の協力が必要であることから、青年会議所や商工会議所等に参加いただいたことで、災害ボランティアセンターの仕組みや協働の必要性について一定の理解促進が図られたのではないかと思います。一方で、予測困難な災害に備えるために重要となる平時からの横のつながりについては、現時点では十分に構築されているとは言えず、今後は関係機関・団体との継続的な関係づくりと連携体制の一層の強化が課題である。

※上記の他、業務上必要な外部の専門研修等に適時参加した。

### 3. 他市町村災害ボランティアセンターへの職員派遣

派遣先等	時期・派遣者等	内容
派遣なし		

### 4. 福祉人材育成のための実習生の受入

実習名等	時期・内容等
(1) 介護員養成実習	受入無し
(2) 社会福祉援助実習	受入無し

《地域福祉活動推進部門》

1. ボランティア育成・福祉教育

[ボランティアセンター管理運営]

<p>【相談件数】 計 191 件</p> <p>【相談支援件数】計 698 件</p> <p>※ボランティア保険対応、関係機関との連絡調整、継続的な相談支援等を含む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの登録（団体・個人） 17 件</li> <li>・ボランティア活動の相談 60 件</li> </ul> <p>内訳：活動希望 23 件、活動依頼 24 件、その他 13 件</p> <p>※この内マッチング件数は 18 件</p> <p>※ちよいボラ活動へのマッチング件数 6 件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他の相談 149 件</li> </ul> <p>※ボランティア保険に関する手続き・問い合わせ対応及び関係機関との連絡調整等を含む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアセンターへの協力要請 6 件</li> <li>・ボランティア連絡協議会事務局業務 36 件</li> <li>・諸室の利用 430 件</li> </ul> <p>※令和 7 年度から集計項目を変更したことにより、前年度と比較して件数に増減が生じている。</p>	<p>【登録団体件数】 計 43 団体（前年比 1 団体増）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会ボランティア 17 団体</li> <li>・福祉ボランティア 13 団体</li> <li>・教育ボランティア 2 団体</li> <li>・文化ボランティア 5 団体</li> <li>・子育てボランティア 4 団体</li> <li>・環境ボランティア 2 団体</li> </ul> <p>【ボランティア保険加入件数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動保険 40 件 657 人(23 人増)</li> <li>・行事用保険 40 件</li> <li>・福祉サービス補償 5 件</li> </ul>
<p>【ボランティア体験会】</p> <p>テーマ：よりあい活動サポーター講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 1/9 よりあい遊具の使い方を学ぼう！（8 人）</li> <li>② 1/13 よりあい活動に行ってみよう！（8 人）</li> </ul> <p>【ボランティアサロン】毎月第 3 土曜日開催</p> <p>参加者 延べ 108 人</p>	<p>【生活支援ボランティア（ちよいボラ）活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア登録者数 102 人（LINE 登録者）</li> <li>・ボランティア活動件数（個別支援） 92 件 主な活動内容：草取り、ゴミ出し、家具の処分等</li> <li>・ボランティア活動件数（地域支援） 29 件 主な活動内容：地域食堂支援、よりあい活動支援、福祉体験学習支援等</li> </ul>
<p>【評価及び課題】</p> <p>ボランティア活動に関する相談内容は多様化しており、継続的な支援や関係機関との連絡調整を要するケースが増加している。また、生活支援ボランティア「ちよいボラ」への問い合わせも引き続き見られ、ニーズの高まりがうかがえる。</p> <p>ボランティア活動者の確保・育成に努めるとともに、円滑なマッチングや支援体制の強化を図る必要がある。</p>	

[各種講座・福祉教育関係]

事業の名称	事業内容・評価及び課題
ボランティア講座	<p>柳川市高齢者福祉係と共催で、「介護予防ポイント活動報告」及び「セラピューティック・ケア講習」を実施した。</p> <p>期日 11 月 19 日（水の郷） / 参加者 約 60 人</p> <p>介護予防ポイント活動報告では、①介護予防サポーター、②ちよいボラ、③芸能</p>

	<p>ボランティア、④質疑応答を行い、それぞれの活動内容や実践事例について共有した。</p> <p>また、講義「セラピューティック・ケア」では、専門知識がなくても実践できるケアの手法について学び、参加者同士がペアとなり実技を行った。</p> <p><b>【評価及び課題】</b></p> <p>本講座では、柳川市高齢者福祉係と共催し、介護予防活動の実践事例の共有と体験型講習を通して、ボランティア活動への理解促進と実践的なスキル習得につながった。</p> <p>また、ちょいボラや芸能ボランティア等、多様な活動を紹介したことで、参加者の関心の幅を広げることができた。</p> <p>今後は、講座参加者を実際の活動へつなげるとともに、継続的な参加を促進するためのフォロー体制の充実が求められる。</p>
<p>傾聴ボランティア養成講座</p>	<p>傾聴の心構えや基礎知識、技術等を学び、地域において活動する傾聴ボランティアの養成を目的に実施した。</p> <p>期日 11月7日、14日、21日（柳川総合保健福祉センター）</p> <p>申込者 17人 参加者 ①14人、②14人、③10人</p> <p>講師 FFA フォロワーシップ協会</p> <p><b>【評価及び課題】</b></p> <p>本講座は、FFA フォロワーシップ協会より3名の講師を招き、全3回で実施した。座学に加え、ロールプレイを中心とした内容とし、「話し手」「聴き手」「観察者」の役割を交代しながら体験することで、それぞれの立場から傾聴への理解を深めることができた。講師からの丁寧な講評もあり、実践的で充実した講座となった。</p> <p>受講者からは「共感の大切さが分かった」「ロールプレイが分かりやすかった」などの声があり、フォローアップ研修を希望する参加者も見られた。</p> <p>今後は、受講者を実際のボランティア活動へつなげるとともに、継続的な活動を支援する必要がある。なお、令和8年度以降は本講座としての実施は行わないこととしている。</p>
<p>市民福祉講座</p>	<p>市民の福祉への関心を高め、身近なテーマについて学習する機会を提供するため今年度は「ユマニチュード」と「終活」についての講座を開催した。</p> <p>期日 2月20日、3月14日（水の郷） / 参加者 ①31人、②35人</p> <p>① テーマ「やさしさを伝えるケア技法 ユマニチュード講演会」 講師 （財）白十字会 人事本部 ケア技術向上推進室 主任 山浦由紀子 氏</p> <p>② テーマ「人と家の終活講座」 講師 （一社）太宰府市空き家予防推進協議会 理事 淀川洋子 氏</p> <p><b>【評価及び課題】</b></p> <p>高齢化が進む現在、認知症や終活はより身近な課題となってきた。講座終了後に実施したアンケートでも同テーマでさらに詳しい内容を希望する声があり、参加者の関心の高さがうかがえた。また、今回の講座で、今抱えている疑問や悩みの解決につながったという喜ばしい声も聞かれた。今後も、市民に関心の高い福祉に関する時事問題や福祉課題を抱える当事者支援につながる講座を企画していきたい。</p>

<p>福祉出前講座</p>	<p>○福祉体験学習</p> <p>小学校から要請を受け、小学校 8 校（全 10 回）で福祉体験学習を実施した。</p> <p>なお、このうち 6 回は柳川市が実施する認知症サポーター養成講座と合同で実施した。また、柳川高校で実施された筑後地区福祉人材バンク（久留米市社会福祉協議会）主催の福祉入門講座において、福祉体験学習のサポートを行った。</p> <p>①5月9日 垂見小学校 4年生 25人 学習内容：高齢者疑似体験</p> <p>②6月16日 矢留小学校 5年生 34人 学習内容：高齢者疑似体験 ※認知症サポーター養成講座 合同実施</p> <p>③6月25日 柳河小学校 5年生 29人 学習内容：高齢者疑似体験 ※認知症サポーター養成講座 合同実施</p> <p>④6月26日 蒲池小学校 4年生 58人 学習内容：アイマスク体験、ボッチャ体験</p> <p>⑤7月3日 城内小学校 5年生 27人 学習内容：高齢者疑似体験 ※認知症サポーター養成講座 合同実施</p> <p>⑥9月3日 昭代第一小学校 5年生 33人 学習内容：高齢者疑似体験 ※認知症サポーター養成講座 合同実施</p> <p>⑦10月2日 垂見小学校 5年生 24人 学習内容：高齢者疑似体験 ※認知症サポーター養成講座 合同実施</p> <p>⑧11月27日 蒲池小学校 3年生 49人 学習内容：高齢者疑似体験、車いす体験</p> <p>⑨1月22日 両開小学校 5年生 28人 学習内容：高齢者疑似体験 ※認知症サポーター養成講座 合同実施</p> <p>⑩2月16日、17日、18日 やまと小学校 3年生 110人 学習内容：高齢者疑似体験、車いす体験</p> <p>⑪3月5日、6日、9日 柳川高校 1年生 280人 学習内容：講話「社会における“きょうそう”と“きょうせい” しゃべれないコミュニケーション体験</p> <p>○暮らしに役立つ“ふくし”の話（社協の事業紹介）</p> <p>①3月23日 棚町水町デイサービス 35人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・棚町水町デイサービスから要請を受け、市社協仕組みや事業紹介を行った。</li> </ul> <p><b>【評価及び課題】</b></p> <p>福祉体験学習では、高齢者の疑似体験や車いす体験を通じて、高齢者や障がいのある人、介助する人の置かれている状況について理解を深めるとともに、福祉の心の醸成につながったものと考えられる。今年度は、認知症サポーター養成講座との合同実施により、学校からの依頼も増加した。一方で、次年度は合同実施を行わない予定であるため、今後は本事業単独での実施に向けた周知を積極的に行っていく必要がある。</p> <p>また、社協の事業紹介では、社協の仕組みについて理解を深め、市社協が行う事業を知っていただく良い機会になった。しかしながら、今年度は1回のみの実施にとどまったため、福祉体験学習とあわせて、今後は積極的な事業周知に努めていく必要がある。</p>
---------------	---

福祉教育教材 活用事業	<p>7月5日、市内14小学校の3年生から6年生（学校で1学年選択）と柳河特別支援学校の教職員に613冊配布した。</p> <p><b>【評価及び課題】</b>          周りの人々とつながり合い支えられていることや、感謝と思いやりの心の大切さを学ぶ機会となったとの報告があった。引き続き、学校と連携し教材を活用した福祉教育を進めていきたい。</p>
各種機材・機器 等貸与事業	<p>年間貸与件数 23 件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア団体（11件）、福祉関係事業所（4件）、行政区（3件）、学校（2件）、地域デイサービス（1件）、老人クラブ（1件）、子ども団体（1件）</li> </ul> <p>貸与機材・機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者疑似体験用具（4件）、プロジェクター（5件）、スクリーン（16件）、スピーカー（1件）、DVDビデオデッキ（1件）、白杖（1件）、車いす（2件）</li> </ul>

## 2. 調査・広報・普及

事業の名称	事業内容・評価及び課題
各種基礎調査	<p>人口や世帯数、高齢者、障がい者等に関するデータ把握のため基礎調査を実施した。          《令和7年3月31日現在データ》</p> <p>①人口 61,088人（前年比838人減）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・65歳以上の割合 35.3%（前年比0.3%増）</li> <li>・75歳以上の割合 20.2%（前年比0.6%増）</li> <li>・14歳未満の割合 11.2%（前年比0.2%減）</li> </ul> <p>②世帯数 26,514世帯（前年比124世帯増）</p> <p>③65歳以上独居高齢者数 5,326人（前年比198人増）</p> <p>④65歳以上高齢者世帯数 8,999世帯（前年比160世帯増）</p> <p><b>【評価及び課題】</b>          調査した福祉データを各種研修や出前講座等で活用し、市民への福祉啓発を推進していく。</p>

<p>社協だより発行 ※年 6 回発行、 奇数月 第 121～126 号</p>	<p>【第 121 号】第 3 期地域福祉活動計画、社福連だより、社協会費のお願い、赤い羽根共同募金等</p> <p>【第 122 号】令和 6 年度事業報告、決算報告、ボランティアセンター、社福連だより、諸行事日程等</p> <p>【第 123 号】会長就任あいさつ、新役員・評議員紹介、赤い羽根共同募金等</p> <p>【第 124 号】やながわ福祉のつどい開催のお知らせ、聞こえの相談会募集、よりあいサポーター講座募集等</p> <p>【第 125 号】年頭あいさつ、諸行事日程、やながわ福祉のつどい報告、柳川市社会福祉協議会会長表彰受賞者一覧等</p> <p>【第 126 号】JA 寄贈、地域サロンネットワーク会議開催報告、地域サロン立ち上げ支援のご案内、共同募金会だより等</p> <p>【評価及び課題】</p> <p>「第 3 期地域福祉活動計画」についてシリーズで概要を掲載し、市民への周知を図るとともに、事業報告や各種行事、講座案内、募金活動等について幅広く情報発信を行った。これにより、市社協の取り組みや地域福祉活動に対する理解促進につながった。</p> <p>一方で、限られた紙面の中での情報の取捨選択や効果的な見せ方に課題がある。今後も、写真や見出しの工夫、レイアウトの統一などにより視認性の向上を図るとともに、市民にとって身近で分かりやすい広報誌づくりを進め、より一層の内容充実に努めていく。</p>
<p>インターネットによる情報発信</p>	<p>○ホームページ 随時更新を行い、社協事業など最新の情報を掲載し、市民に情報提供を行った。 ・年間アクセス件数 40,421 件</p> <p>○フェイスブック フェイスブックを通して、社協事業や地域福祉に関する情報提供及び啓発活動を行った。</p> <p>○LINE 公式アカウントを通して、社協事業や福祉情報等の情報発信を行った。 ・登録者 304 人</p> <p>【評価及び課題】</p> <p>ホームページや SNS を活用し、紙媒体と併せた情報発信を行うことで、幅広い層への周知を図った。</p> <p>一方で、媒体ごとの特性を活かした発信内容や更新頻度に課題があるため、今後は内容の充実と継続的な情報発信に努める。</p>
<p>やながわ福祉のつどい</p>	<p>社会福祉の発展に功績のあった方を表彰するとともに、広く市民に参加を呼びかけ、社会福祉への関心を高める機会として実施した。</p> <p>期日 11 月 29 日（市民文化会館）／ 参加者約 200 人</p> <p>① 式典 社会福祉功労表彰、福祉標語・ふれあいフォトコンテスト受賞者表彰など</p> <p>② やながわ福祉メッセージ 発表者 武井彩子 氏、河野安津子 氏（柳川市役所福祉課 認知症地域支援推進員）、河村睦枝 氏（認知症当事者）</p>

	<p>③ 記念講演「スローライフランニングのススメ」 森脇健児 氏（タレント）</p> <p><b>【評価及び課題】</b> 社会福祉功労者の表彰や記念講演等を通じて、市民の社会福祉への関心を高める機会となった。また、ロビーで実施した各種団体による物販や高校生によるハンドマッサージ、同時開催の「くすのもりアート展」は多くの来場者で賑わい、交流の場としても一定の成果が見られた。</p> <p>一方で、参加者数は前年度と比較して大幅に減少しており、周知方法や開催内容の工夫が課題である。これまでの参加要請に頼るのではなく、市民が関心を持ち自発的に参加したくなるような企画内容や情報発信の在り方を検討する必要がある。</p> <p>今後は、幅広い世代が参加しやすい内容や企画の充実を図るとともに、効果的な周知方法を工夫し、自発的な参加につながる事業運営に努めていく。</p>
--	--

### 3. 小地域福祉ネットワーク、よりあい活動

事業の名称	事業内容・評価及び課題
福祉委員設置 推進事業	<p>○福祉委員設置状況（令和8年3月末現在） 福祉委員数 420人（290/324行政区）</p> <p>○研修会等開催状況</p> <p>1) 福祉委員地区別研修会</p> <p>①9月4日 大和地区（参加者 48人） ②9月9日 三橋地区（参加者 47人） ③9月12日 柳河、沖端、西宮永、昭代地区（参加者 56人） ④9月12日 城内、東宮永、両開、蒲池地区（参加者 37人）</p> <p>・福祉委員の役割について ・サイコロトーク ～意見・情報交換会～</p> <p>2) 地域福祉セミナー（福祉委員全体研修会） ※令和7年度は民生児童委員協議会と合同で「民生児童委員・福祉委員合同研修会」として開催した。</p> <p>①6月6日 柳川市民文化会館「水都やながわ」 大ホール （参加者：198人） ・誰もが安心して暮らせる地域社会の福祉増進について</p> <p>②1月28日 柳川市民文化会館「水都やながわ」 大ホール （参加者：160人） ・地域福祉の方向性と民生委員児童委員の役割 ・個人情報及びプライバシーの取り扱い</p> <p><b>【評価及び課題】</b> 今年度は、地区別研修会の他、民生委員児童委員との合同研修会を実施した。地区別研修会では、普段交流する機会が少ない他地区の福祉委員との意見・情報交換が盛んに行われ、今後の福祉委員活動の参考としていただける機会となった。</p> <p>合同研修会では福祉委員としてボランティア活動を行う意義について理解を深め、高齢者福祉の分野だけでなく児童福祉の分野にも視野を広げる良い機会になった。次年度は、民生委員児童委員との合同研修会を予定しており、地域福祉活動や双方の活動への理解促進を図るとともに良好な関係づくりに努めていきたい。</p>

<p>地区社協事業</p>	<p>○地区社協連絡会  第1回（6月18日、各地区会長、事務局長）  ・令和7年度市社協事業及び組織体制について  ・各地区の今年度の主な取り組みについて等  第2回（3月4日、各地区会長、事務局長）  ・令和8年度地区社協連絡会事業及び活動助成金について  ・福祉委員の選任に係る推薦について  ・買い物支援付き介護予防教室について  ・各地区の今年度の振り返りや次年度の事業展望等について等</p> <p>○地区社協役員研修会  10月18日、水の郷ホール 参加者71人</p> <p>○地区社協個別支援（70回）  運営及び活動への助言、内部研修への講師派遣、役員会への参加、地域イベントの運営支援、視察研修への同行等</p> <p><b>【評価及び課題】</b>  各地区社協の行事（会議、研修会、イベント）等に積極的に参加し、地区社協関係者と顔の見える関係性を築きながら活動支援に努めた。その中で、住民の支え合い活動としてのよりあい活動への理解も進み、複数地区で地区社協役員と共によりあい活動の立ち上げを行った。次年度も地区社協行事に積極的に参加し、地域課題の整理・共有、課題解決に向けて伴走的な支援を行うとともに、地区社協を基盤とした地域関係者のネットワークの構築や地域づくり支援に努めていきたい。</p>
<p>よりあい活動普及推進事業</p>	<p>○よりあい活動室内遊具の貸与  貸与件数49件（内訳：地域デイサービス7、その他よりあい活動等42）</p> <p>○レクリエーション実施回数 44回/年</p> <p>○よりあい活動に関する説明会 3地区社協（両開、昭代、豊原）</p> <p>○新規立ち上げ支援 4団体</p> <p>○新規立ち上げのための助成金交付 2団体（各10,000円）</p> <p>○活動団体への継続的な支援（活動への助言、案内チラシ作成等）</p> <p>○地域食堂ネットワーク会議の開催  12月19日、参加者34人（17団体）  ・地域サロン実施団体による活動紹介と意見交換  ・市社協が行う地域サロン支援についての説明  ・買い物支援に関する取り組みについて（エフコープ、中島商店会）</p> <p><b>【評価及び課題】</b>  新たに4団体が地域サロンを立ち上げ、立ち上げ支援や助成金の交付を行うなど、地域における居場所づくりの推進につながった。また、遊具の貸与やレクリエーションの実施支援の利用も増加しており、活動の充実が図られている。</p> <p>地域サロンネットワーク会議においては、今年度初めて開催し、各団体の取り組みや課題を共有し、運営の参考となる情報交換の場となった。一方で、参加者の固定化や減少、後継者不足等は多くの団体に共通する課題であり、活動の継続に向けた支援が求められる。</p> <p>今後は、新規団体の立ち上げ支援に取り組むとともに、既存団体への継続支援や</p>

	ネットワーク会議の開催等を通じて、よりあい活動の定着と拡充を図っていく。
地域食堂普及推進事業	<p>○新規立ち上げ支援 3 団体</p> <p>○助成金交付 3 団体 (計 60,000 円)</p> <p>○活動団体への継続的な支援 (活動への助言、チラシ作成、補助金等の申請事務、視察先の調整と同行、協力企業との仲介、食料提供、当日の運営支援等)</p> <p>○地域食堂ネットワーク会議の開催</p> <p>10 月 24 日、参加者 14 人 (9 団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市社協が行う地域食堂支援についての説明</li> <li>・地域食堂実施団体による活動紹介と意見交換</li> </ul> <p><b>【評価及び課題】</b></p> <p>今年度新たに 3 団体が地域食堂を立ち上げることとなり、立ち上げに係る支援と助成金の交付を行った。また、企業等からの食品等の提供に係る調整も行うことができた。今後も地域住民が集う身近な居場所としてその地区にあったオーダーメイドの形で地域食堂の普及推進を図っていききたい。また、運営に係る財源不足の問題が生じている団体もあるため、市や自治体、地区社協等と連携しながら、財源確保に努めていききたい。</p>

#### 4. 当事者及び当事者団体への支援

事業の名称	事業内容・評価及び課題
歳末たすけあい事業 ※助成事業 (12/1～12/31)	<p>新年を迎える時期に要支援者が安心して暮らすことができるように、地区社会福祉協議会の歳末たすけあい事業を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施地域：柳川 8 地区、大和 6 地区、三橋 5 地区</li> <li>・助成額 920,100 円 (前年比 19,000 円減)</li> <li>・主な事業：ひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯及び施設入居者等への見舞品配布 (カツオパック、お茶、タオル、手紙など)</li> </ul> <p>※市社協で作成した見守り配布物 (脳トレドリル、自宅でできる体操の紹介チラシ等) も活用いただいた。</p> <p><b>【評価及び課題】</b></p> <p>地区社協を通じた年末時期のたすけあい活動として定着している。歳末期に限らず、平常時における声かけや見守り活動の充実につながる支援を行っていききたい。</p>
福祉団体活動支援事業 ※助成事業	<p>市内で活動する福祉団体の当事者同士の交流、福祉制度の学習や広報啓発の活動を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成団体数 4 団体 (前年比±0)</li> <li>・助成額 573,000 円 (前年比 30,000 円減)</li> </ul>
ボランティア団体活動支援事業 ※助成事業	<p>誰もが安心して暮らせる地域づくりのため、主に市内で活動するボランティア団体の活動を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成団体数 4 団体 (前年比±0)</li> <li>・助成額 141,000 円 (前年比 3,000 円増)</li> </ul>

ボランティア連絡協議会活動支援事業 ※助成事業	市内でボランティアを行う団体又は個人の繋がりを作り、活動を推進するために、ボランティア連絡協議会の活動を支援した。 ・助成額 100,000 円（前年比増減なし）
物故者への敬供事業	敬供件数 817 件（前年比 119 件減） ※敬供品 線香及び弔意 【評価及び課題】 香典返し寄付の件数及び寄付額、敬供寄付比率が前年と比べ減少。オンライン寄付など引き続き敬供事業の在り方を検討していく必要がある。

## 5. 生活支援体制整備事業の推進 [市受託事業]

事業の名称	事業内容・評価及び課題
地域のニーズと資源の把握、情報発信	①地域ニーズの把握 地域サロン、地域食堂、地区社協関係行事（会議、研修会、イベント）等様々な場に参加し、地域住民や地域関係者と顔の見える関係性を築きながら地域ニーズの情報収集を行った。また、発見したニーズに対するコーディネートを行った。 ②地域資源の把握、情報発信 柳川市と協働し、『高齢者くらしの便利帳』に市各相談窓口やサービス・制度、新たな事業者等の情報追加し、『やながわくらしの便利帳』として情報誌を発行した。 ・令和 7 年 11 月発行 ・発行数：814 部（令和 8 年 3 月末現在） 【評価及び課題】 地域に出向く機会が増え、住民や地域関係者との関係性づくりや地域課題の収集を行うことができた。また、『やながわくらしの便利帳』の発行にあたり、掲載する情報量の増加に伴う、必要資材（紙、インク等）や印刷の負担が課題となった。負担を軽減し、より効率的な発行方法について、また、掲載情報見直しの頻度等についても市との協議が必要。市民の方が活用しやすく、さらに充実した内容にするため、意見収集（目安箱）や掲載協力依頼等を周知・実施し、今後に反映していきたい。
よりあいの場立ち上げ支援	地域サロンや地域食堂など身近な地域で住民が集える居場所の立ち上げを支援した。（詳細は、前述のよりあい活動普及推進事業、地域食堂普及推進事業に記載。）
ネットワークの構築	地区社協を基盤とした地域関係者のネットワーク構築や地域づくり支援を行った。（詳細は、前述の地区社協事業に記載。） また、崩道地区をモデル地区に設定し、崩道いきいきクラブ（よりあい活動）で住民座談会を開催した。座談会では、参加者の生活課題や地域課題等を収集して、住民の困りごとと解決につなげた。また、地域の理想像についても意見交換を行い、新たな取り組み（崩道いきいき食堂）の実現に至った。
新たなサービスの開発	○買い物支援事業の企画・検討 買い物問題の解消や地域のつながりづくりを目的に、昭代地区住民と協働し、昭代マルシェを開始した。（令和 7 年度は 8 回開催） また、買い物に困っている高齢者等の生活を支えるサービスの開発に向けて、

	<p>近隣市の買い物支援事業を視察した。</p> <p><b>【評価及び課題】</b></p> <p>家族関係や地域のつながりの希薄化、商店等の閉店に伴い買い物に困る高齢者が増加しているため、新たなサービスの開発が急務である。柳川市と連携して、買い物支援に係る新たな施策を講じていきたい。</p>
--	--

## 6. 地域における公益的な取り組みの推進

事業の名称	事業内容・評価及び課題
地域公益活動への参加	<p>○道守柳川ネットワーク清掃活動への参加</p> <p>10月26日 11人参加</p> <p>2月22日 13人参加</p> <p>○社会福祉法人連絡協議会主催の研修への参加</p> <p>3月24日 5人参加</p> <p><b>【評価及び課題】</b></p> <p>社会福祉法人連絡協議会（14団体加入）の事務局として、総会・役員会等の組織運営や研修会及び清掃活動への積極的な参加を行った。</p>

《市民福祉サービス部門》

1. 悩みごとを抱える世帯への支援

(1) 心配ごと相談事業 [市受託事業]

場 所	開設日・時間	開設日数	相談件数	主な相談事項
柳川総合保健福祉センター 「水の郷」	第1・第3木曜日 13:00～16:00	23日 (+1)	23件 (+1)	①家族 5件 ②住宅・土地 05件 ③生計・年金 04件
<p><b>【評価及び課題】</b></p> <p>相談件数は、前年比1件増で、1日あたりの平均相談件数は1件であった。近年、相談件数が減少傾向にあることから、当該事業の在り方や実施方法について検討していく。</p> <p>また、従来の相談内容は家族や住宅・土地などの問題が多かったが、今年度は様々な内容の相談が寄せられた。引き続き、相談先が分からない方等の初期相談窓口として、気軽に相談できるよう広く市民に周知していく。</p>				

2. 生活困窮世帯への支援

(1) 緊急支援品支給事業

申請件数	実申請者数	延べ世帯人数	社協支給品				その他支給品
			アルファ米	パン(缶)	主食 (ご飯、麺など)	副食 (インスタント)	
142件 (-2)	42人 (-6)	198人 (-54)	62食 (-60)	9食 (-27)	288食 (+133)	233食 (-28)	缶詰、麺類、白米、パン(缶)、レトルト食品等 ※寄贈団体：フードバンクくるめ、県社協、市民
<p><b>【評価及び課題】</b></p> <p>今年度は前年度と同程度の申請件数であるが、単身世帯からの申請が増加したため、延べ世帯人数が減少した。また、今年度は、市民やフードバンク等から多くの食品寄贈をいただいたため、社協で準備するアルファ米等の支援品の購入を抑えることができた。</p> <p>課題としては、同一申請者による複数回の申請が多く、慢性的に生活困窮に陥っている状態で、年金や生活保護費の支給日前に相談に来られる継続利用者が散見される。このため、一時的ではなく、長期的にも支援品の支給が可能となるよう事業要綱を改正し、次年度から施行することとした。</p> <p>今後も申請者の生活状況に応じて支援品を支給し、自立に繋がるように支援していく。</p>							

(2) 生活福祉資金貸付事業 [県社協受託事業]

①本則貸付

福祉資金本則貸付 資金種類		相談件数				申請 件数	決定 件数	償還完 了件数	年度末 件数
		申込	償還	その他	計				
総合支援 資金	生活支援費	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	17件
	住宅入居費	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
	一時生活再建費	1件	0件	0件	1件	0件	0件	0件	
臨時特例つなぎ資金		0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	2件
福祉資金	福祉費	27件	0件	1件	28件	3件	3件	5件	23件
	緊急小口資金	20件	0件	0件	20件	2件	1件	1件	45件
教育支援 資金	教育支援費	23件	0件	0件	23件	2件	2件	2件	136件
	就学支度費	22件	0件	0件	22件	3件	3件	3件	
不動産担 保型生活 資金	一般世帯	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	1件
	要保護世帯	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
離職者支援資金		0件	0件	0件	0件	0件	0件	1件	2件
海苔養殖業者緊急生活資金		0件	1件	0件	1件	0件	0件	0件	11件
資金該当なし		17件	0件	1件	18件				
合 計 (前年比)		110件 (-12)	1件 (-7)	2件 (-9)	113件 (-28)	10件 (-8)	9件 (-9)	12件 (+5)	237件 (-5)

②新型コロナ特例貸付

資金種類	償還完了 件数	償還免除 件数	年度末 件数	相談件数 (前年比)			
				償還方法	償還免除	その他	計
緊急小口資金	20件	10件	158件	4件 (-3)	1件 (-2)	10件 (-1)	15件 (-6)
生活支援費	0件	15件	223件				
合 計 (前年比)	20件 (-15)	25件 (-23)	381件 (-45)				

【生活福祉資金貸付事業 評価及び課題】

本則貸付の申請件数は、前年度に比べ減少した。これは、安易な貸付で負債を増やすのではなく、相談時に貸付の必要性や生活状況を丁寧に聴き取り、食糧支援などの社会資源の活用や関係機関に繋ぐことをこれまで以上に徹底したためである。

新型コロナ特例貸付においては、今年度、貸付世帯の現在の生活状況を把握するため、市内在住の償還完了・猶予・免除世帯にアンケート（295世帯中32世帯が回答）を送付し、生活状況の把握を行った。また、償還滞納世帯については、自宅訪問（74世帯中12世帯が応答）を行った。

調査の結果、未だ多くの世帯が金銭的な困りごとがあることがわかったことから、司法書士による生活相談会を実施したものの、参加者は3名に留まり、本会の関わりや支援を希望しない世帯への対応が課題と感じている。

近年の急激な物価高騰により、生活困窮に関する相談が増加することが想定されるため、様々な社会資源を活用するとともに、他機関と連携を取りながら世帯更生に向けた相談支援を行っていく。

### 3. 子育て世帯への支援

#### (1) 子育て支援ゆずりあい事業

品目	チャイルドシート	ベビーベット	ベビーカー	その他	合計
譲受件数	5件 (±0)	1件 (-2)	1件 (-3)	06件 (±0)	13件 (-5)
譲渡件数	5件 (-1)	1件 (±0)	3件 (±0)	05件 (-4)	14件 (-5)
合計 (前年比)	10件 (-1)	2件 (-2)	4件 (-3)	11件 (-4)	27件 (-10)

#### 【評価及び課題】

不要となった育児用品を譲りたい人と譲ってほしい人との橋渡しを行うことで、資源の有効活用と子育て世代の育児支援を目的に実施した。

今年度は、譲受、譲渡ともに前年度を下回った。隣接する子育て支援拠点施設でも譲り合いコーナーが設置されていることも、減少の一因であると思われる。

### 4. 在宅生活の支援

#### (1) 福祉用具貸与事業

貸与品	年間の貸与延べ件数	評価及び課題
車椅子	369件 (00-3)	<p>電動ベッドの貸与については、令和6年度から住民税非課税世帯及び生活保護受給世帯のみを対象とし、令和5年度末に貸与開始した世帯が最長2年間で貸与期間満了となることから、今年度で一般世帯への貸与が終了し、貸与件数が大きく減少した。</p> <p>また、車椅子の貸与件数は同程度であったものの、簡易ベッドや歩行器、松葉杖、乳児用ベッドの貸与が年々減少してきているため、広報誌やHPで市民に事業の周知を行い、利用促進を図っていく。</p>
電動ベッド	217件 (-124)	
簡易ベッド	1件 (0-15)	
歩行器	4件 (0-21)	
松葉杖	0件 (00-5)	
乳児用ベッド	2件 (0-13)	
合計 (前年比)	593件 (-181)	

#### (2) ハンディキャブ (福祉車両) 貸与事業

実利用者数 (前年比)	年間貸与件数 (前年比)	評価及び課題
28人 (+8)	87件 (+24)	<p>当該事業は利用者が固定化されていたため、広報誌やHPで周知を行ったところ、新規利用者が6人増え、前年度より実利用者数及び年間貸与件数が増加した。</p> <p>定期的に通院で利用する人が多く、大変好評な事業なので、今後も車椅子利用者の外出支援の為、広く市民に周知をしていく。</p>

## 5. 被災世帯への支援

### (1) 火災見舞品支給事業

支給件数（前年比）	事業内容・評価及び課題
1件・3セット (±0件・+2セット)	被害が半焼以上の火災が1件発生し、2世帯に3セットを支給した。今後も被災状況の情報を正確に把握し、速やかに見舞品を届けられるように努める。

## 6. 権利擁護が必要な方への支援

### (1) 日常生活自立支援事業 [県社協受託事業]

利用区分	期首人数	期中増数	期中減数	期末人数	支援回数
認知症高齢者	11人	5人	6人	10人	171回
知的障がい者	7人	2人	1人	8人	142回
精神障がい者	8人	5人	2人	11人	197回
計 (前年比)	26人 (-1)	12人 (+10)	9人 (+6)	29人 (+3)	510回 (+5)
評価及び課題	<p>利用者の中には、年月の経過で契約当初に比べると判断能力が低下している利用者が見受けられることから、成年後見制度への移行について柳川市の成年後見センターと相談しながら、成年後見制度への移行を進めていく必要がある。</p> <p>また、利用ニーズが増加傾向にあるため、生活支援員の配置見直しを行うなど実施体制を検討していく。</p>				

### (2) 法人後見事業

受任件数 0 件

評価及び課題	<p>日常生活自立支援事業の利用者1名が成年後見制度に移行したが、債務整理等が必要であったことから、専門職（司法書士）が保佐人についたため、今年度も受任には至らなかった。</p> <p>次年度以降も引き続き、体制整備と担当職員の研修を行いながら、受任体制の強化を行っていく。</p>
--------	---

## 7. 大和・三橋老人福祉センター管理運営 [市受託事業]

### [大和老人福祉センター]

月	開館日数	利用者数	平均利用者数
4月	25日	85人	3.4人
5月	24日	13人	0.5人
6月	25日	25人	1.0人
7月	27日	43人	1.6人
8月	23日	27人	1.2人
9月	24日	23人	1.0人
10月	27日	35人	1.3人
11月	25日	18人	0.7人
12月	23日	23人	1.0人
1月	23日	22人	1.0人
2月	22日	15人	0.7人
3月	25日	38人	1.5人
合計 (前年比)	293日 (+4)	367人 (-7,274)	1.3人 (-25.1)

#### 【評価及び課題】

昨年3月以降入浴設備の故障に伴い、お風呂の利用を中止しているため利用者数は大幅に減少した。なお、入浴以外の大広間及びカラオケの利用等は通常どおり運営しているため、安心して利用できるよう努めていく。

### [三橋老人福祉センター]

月	開館日数	利用者数	平均利用者数
4月	23日	794人	34.5人
5月	22日	792人	36.0人
6月	23日	775人	33.7人
7月	24日	776人	32.3人
8月	19日	607人	32.0人
9月	22日	790人	35.9人
10月	24日	826人	34.4人
11月	20日	695人	34.8人
12月	22日	862人	39.2人
1月	21日	881人	42.0人
2月	20日	768人	38.4人
3月	23日	830人	36.1人
合計 (前年比)	263日 (+4)	9,396人 (+757)	35.8人 (+2.4)

#### 【評価及び課題】

大和老人福祉センターの入浴設備の故障に伴い、同センター利用者の来館が増加したこと等の影響により、利用者数は前年度を上回った。また、徐々に新規利用者も増えてきているため、今後も安全・安心なセンター運営に努めていく。

《障がい者相談支援部門》

(1) 障害者相談支援事業・特定相談支援事業

障害 種別	身体	知的	精神	発達障害	難病	重度心身	高次脳 機能障害	その他	合計
月 件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数
4月	204件	339件	196件	10件	0件	73件	1件	59件	882件
5月	105件	500件	174件	35件	0件	44件	37件	56件	951件
6月	240件	454件	144件	20件	0件	28件	25件	49件	960件
7月	351件	502件	128件	15件	0件	67件	9件	54件	1,126件
8月	219件	472件	128件	14件	1件	23件	1件	48件	906件
9月	241件	456件	141件	37件	0件	17件	4件	81件	977件
10月	274件	341件	271件	51件	0件	58件	11件	102件	1,108件
11月	167件	356件	207件	53件	5件	31件	2件	64件	885件
12月	171件	473件	114件	27件	0件	49件	23件	50件	907件
1月	176件	474件	140件	23件	8件	55件	31件	34件	941件
2月	172件	479件	172件	11件	1件	53件	9件	41件	938件
3月	181件	503件	169件	3件	0件	32件	2件	56件	946件
合計 (前年比)	2,501件 (-68)	5,349件 (-48)	1,984件 (-215)	299件 (-138)	15件 (-207)	530件 (-183)	155件 (-59)	694件 (-95)	11,527件 (-917)
相談比率	21.7%	46.4%	17.2%	2.6%	0.1%	4.6%	1.4%	6.0%	—

【相談方法】 関係機関(53%)、電話(26%)、訪問(4%)、来談(3%)、同行(0%)、個別支援会議(0%)、電子メール(0%)、その他(14%)

【支援内容】 福祉サービス(30%)、健康・医療(8%)、生活技術(13%)、家計・経済(10%)、人間関係(9%)、就労(6%)、不安の解決(3%)、社会参加(4%)、権利擁護(4%)、障害・病気の理解(1%)、保育教育(2%)、その他(10%)

【サービス利用計画作成件数 111 件】

内訳：知的 72 件、身体 14 件、精神 13 件、重度心身 10 件、高次脳 1 件、発達障害 1 件

【評価及び課題】

昨年、新たに計画相談支援事業所が開設されたことで、計画相談支援に対応できない状況は改善された。昨年に引き続き、障がい福祉サービスにつながらないひきこもりや生活困窮の課題を抱える人に対して関係機関と連携しながら相談支援を行った。また、障がい福祉環境の向上のため、障がい者自立支援協議会等に継続して参加している。

今後は、障がい福祉に限らない関係者との連携・連動を定着させていく。また、対人援助だけでなく、地域課題を整理し、社会資源の創出等ソーシャルワークを展開していきたい。

《在宅福祉サービス部門》

(1) 介護保険事業・障害者総合支援事業

月	居宅介護支援	訪問介護		障害者総合支援	
	利用者数	利用者数	利用回数	利用者数	利用回数
4月	61人	11人	78回	8人	100回
5月	62人	14人	97回	8人	109回
6月	62人	13人	87回	8人	99回
7月	57人	13人	87回	7人	82回
8月	58人	13人	76回	7人	84回
9月	54人	12人	83回	8人	89回
10月	57人	14人	99回	8人	93回
11月	58人	14人	87回	8人	83回
12月	61人	17人	121回	8人	91回
1月	63人	20人	128回	9人	75回
2月	63人	21人	148回	7人	61回
3月	47人	21人	182回	4人	48回
合計 (前年比)	703人 (-20)	183人 (-38)	1,273回 (-633)	90人 (-47)	1,014回 (-740)

【評価及び課題】

居宅介護支援については、8月から職員体制の変更があったが、利用者数維持に努めた。訪問介護についても、職員体制の変更により利用者定員数が減り、利用者の入院や入所も重なり、利用回数は減少した。引き続き、信頼される介護サービスの提供に努めていきたい。

(2) 予防給付事業

月	介護予防支援	総合事業（現行相当訪問介護）	
	利用者数	利用者数	利用回数
4月	2人	40人	211回
5月	3人	40人	198回
6月	3人	37人	189回
7月	3人	36人	186回
8月	3人	35人	166回
9月	3人	38人	177回
10月	3人	35人	193回
11月	3人	35人	169回
12月	2人	35人	182回
1月	2人	34人	166回
2月	3人	31人	163回
3月	3人	35人	180回
合計 (前年比)	33人 (-24)	431人 (-51)	2,180回 (-1,255)

【評価及び課題】

介護予防事業全般においては、職員体制の変更、利用者の入院や入所により利用者数や利用回数は減少となっている。今後も利用者の自立した生活を支援するため、適切な介護サービスの提供に努めていきたい。

(3) 在宅介護自費サービス事業

月	実利用者数	利用回数
4月	5人	13回
5月	4人	10回
6月	3人	6回
7月	4人	8回
8月	4人	9回
9月	5人	11回
10月	5人	19回
11月	5人	21回
12月	4人	19回
1月	6人	23回
2月	6人	41回
3月	5人	39回
合計 (前年比)		219回 (+25)
<p><b>【評価及び課題】</b>            今後も引き続き、利用者の介護ニーズに柔軟に対応できるようサービス内容を工夫・改善しながら自費サービスの提供に努めていく。</p>		

(4) 地域生活支援事業 [市受託事業]

[移動支援事業]

月	実利用者数	利用回数
4月	2人	23回
5月	2人	21回
6月	2人	22回
7月	2人	23回
8月	2人	20回
9月	2人	22回
10月	2人	23回
11月	3人	21回
12月	3人	24回
1月	3人	22回
2月	3人	20回
3月	3人	25回
合計 (前年比)		266回 (-5)
<p><b>【評価及び課題】</b>            利用者の増減はなく、新規の利用申込みは1件だった。今後も利用者の年齢や特性を考慮し、社会参加のための外出や余暇活動に同行し、安全に支援していきたい。</p>		

(5) エンゼルサポーター派遣事業 [市受託事業]

月	実利用者数	派遣回数
4月	1人	6回
5月	1人	8回
6月	1人	6回
7月	1人	8回
8月	0人	0回
9月	2人	11回
10月	2人	10回
11月	0人	0回
12月	0人	0回
1月	0人	0回
2月	0人	0回
3月	0人	0回
合計 (前年比)		49回 (+42)
<b>【評価及び課題】</b>		
エンゼルサポーター派遣事業については、2人の利用があった。今後も所管課と連携し利用者支援に繋げていきたい。		

(6) 高齢者生きがい活動支援通所事業 [市受託事業]

月	実施日数	登録者数	実利用者数	延べ利用者数	1日平均利用者数
4月	13日	39人	39人	150人	11.5人
5月	10日	39人	37人	109人	10.9人
6月	13日	39人	39人	153人	11.8人
7月	13日	39人	38人	144人	11.1人
8月	10日	40人	38人	123人	12.3人
9月	12日	42人	39人	150人	12.5人
10月	12日	43人	41人	148人	12.3人
11月	10日	44人	40人	126人	12.6人
12月	12日	44人	40人	145人	12.1人
1月	11日	44人	38人	124人	11.3人
2月	10日	44人	35人	108人	10.8人
3月	14日	44人	37人	153人	10.9人
合計 (前年比)	140日 (-93)			1,633人 (-1,117)	11.7人 (-0.1)
<b>【評価及び課題】</b>					
今年度から週3回の実施となり、利用者は週1回の利用に変更された。利用者の高齢化が進んでいるがデイサービスを利用することで日常生活における活動意欲の向上及び認知症予防に繋がっている。脳トレや筋力体操を多く取り入れ体力低下予防に繋げていきたい。事業対象地区が限定され、周知や広報活動に制約があるが、民生委員等を通じて新規利用者の獲得に努めていきたい。					

(7) 買い物支援付介護予防教室事業 [市受託事業]

【中島地区】

月	実施日数	登録者数	実利用者数	延べ利用者数	1日平均利用者数
4月	1日	5人	5人	5人	5.0人
5月	2日	5人	5人	6人	3.0人
6月	2日	6人	6人	9人	4.5人
7月	3日	6人	6人	14人	4.6人
8月	2日	7人	7人	10人	5.0人
9月	2日	7人	7人	10人	5.0人
10月	2日	8人	8人	13人	6.5人
11月	2日	8人	8人	15人	7.5人
12月	2日	8人	8人	13人	6.5人
1月	2日	9人	9人	17人	8.5人
2月	2日	9人	9人	7人	3.5人
3月	2日	9人	9人	15人	7.5人
合計	24日			134人	5.6人

【昭代地区】

月	実施日数	登録者数	実利用者数	延べ利用者数	1日平均利用者数
4月	2日	5人	5人	5人	2.5人
5月	2日	5人	5人	8人	4.0人
6月	2日	6人	6人	9人	4.5人
7月	2日	6人	6人	10人	5.0人
8月	2日	6人	6人	9人	4.5人
9月	2日	6人	6人	10人	5.0人
10月	2日	6人	6人	11人	5.5人
11月	2日	5人	5人	7人	3.5人
12月	2日	6人	6人	10人	5.0人
1月	2日	6人	6人	9人	4.5人
2月	2日	6人	6人	11人	5.5人
3月	2日	6人	6人	10人	5.0人
合計	24日			109人	4.5人

【評価及び課題】

身近に利用できる買い物先がない地域もあり、買い物支援付介護予防教室事業は喜ばれている。参加することで人とのつながりが増え、健康教室での転倒防止や筋力をつける体操を行うことで健康促進・認知症予防にもつながっている。1日平均4~6名で推移しているが、利用者数が少ないため所管課と連携して開催地区への周知を図っていきたい。